

## 7. 労働事情

### 労働市場

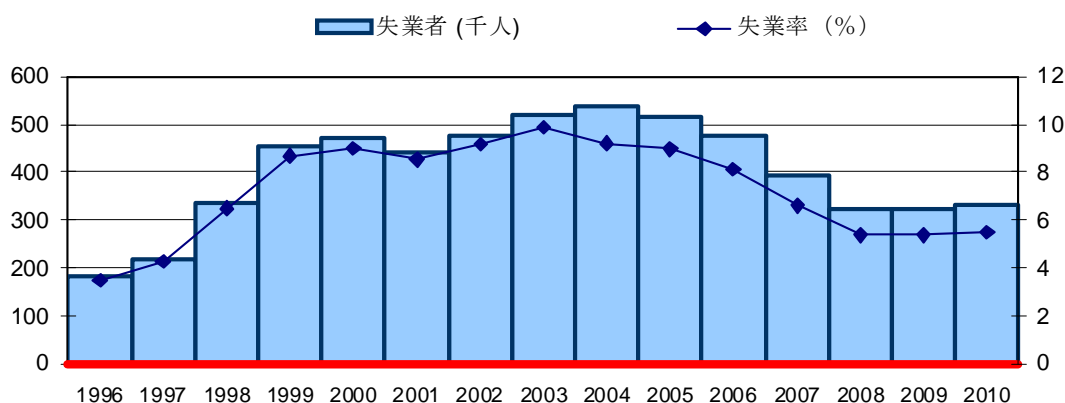
1997年を契機に、チェコの失業率は著しく増加している（下記グラフ参照）。しかしながら、2004年以降僅かながらではあるが減少の兆しが見えており、これはある意味でチェコ経済のダイナミックな成長にリンクしたものと言える。また、チェコの労働市場の特徴として、顕著な地域格差があげられる。

特に北部地域および東部地域と中央ボヘミアあるいは首都プラハを比較すると格差は明らかである。

また、労働市場の発展には、各産業セクターが担う役割も大きく、近年、光学器械、ゴム・木材加工業と共に、電気工学部門が大きな盛り上がりを見せている。自動車産業も目覚ましい成長を遂げており、シュコダの各工場（ムラダボレスラフ、ヴルフラビ、クヴァシニ）やTPCA（コリーン）およびノソヴィツェにあらたに建設された現代の工場に代表される数多くの投資企業を見ることができる。サービス産業もまた上昇傾向にある。一方、皮革、繊維、衣料の分野はかなり落ち込んでいる。

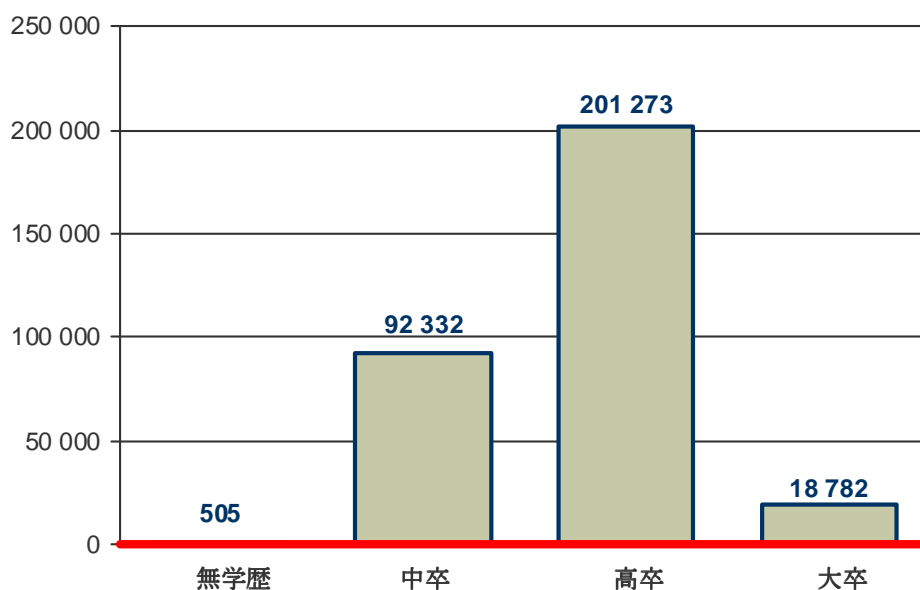
出所：EC 労働市場情報 2008年版

### チェコ共和国の失業者数と失業率



出所：2008年 財務省，（2008-2009年 予想，2010年 見通し）

### チェコ共和国の失業者数- 最終学歴別（2008年第3四半期）



出所：2008年 社会労働福祉省

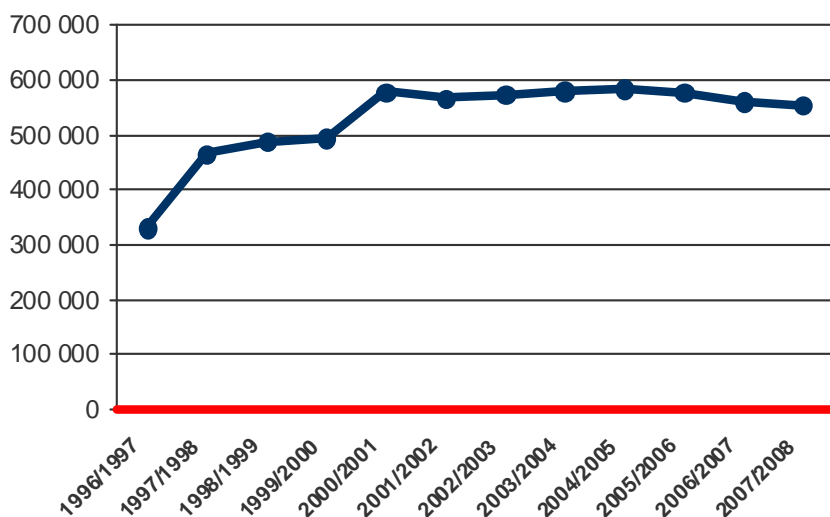
改訂：2008年11月

ファクトシート・ナンバー7 - 労働事情

## 高度な技術を持った 労働力

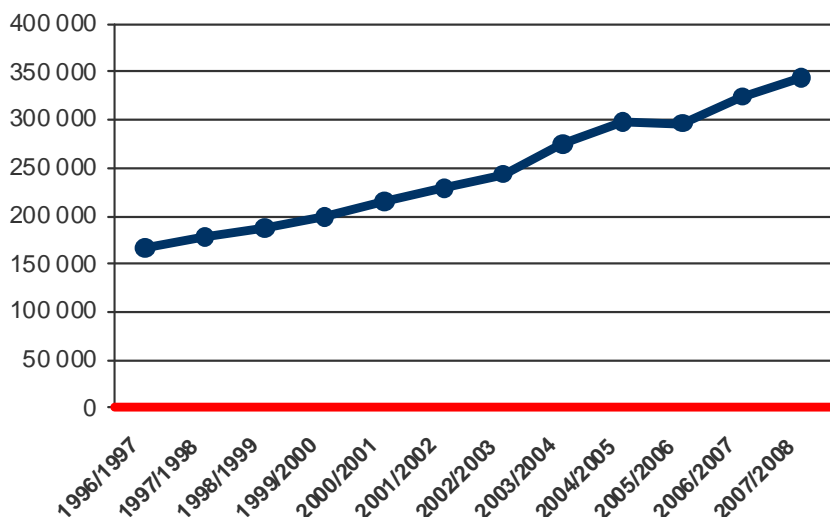
投資家にとってチェコの最大の魅力は、西欧諸国の数分の一のコストで、熟練した教育水準の高い労働力が確保できることである。OECD の調査によれば、チェコは理工系学生の比率が最も高い国の 1 つである。(詳細は、後述の「技術教育」の項を参照)。教育制度の改革のみならず外国企業の潜在的被雇用者である 18~26 歳人口の急増などの要因で、大学在学者数は、1990/91 年度の 11 万 8,000 名から、2007/2008 年度には 34 万 4,180 名に増えた。

### 高校生数



出所:2008 年 教育情報研究所

### 大学生



出所:2008 年 教育情報研究所

## 労働移動

居住、就労を目的として国外に移住するチェコ人は、年間 1,000 人以下である。EU 加盟がチェコ人労働者の国外脱出をもたらすとの危惧は見られない。就労目的で旧 EU 諸国に移住するチェコ人の数は、比較的少ない。

一方、長期滞在許可、労働許可証を取得しているチェコ在留の外国人は 25 万人を超える。長期滞在のためチェコに入学する外国人は毎年 1 万人以上である。(詳細は、後述の「チェコへの入国と滞在・就労」の項を参照。)